平成２２年度認定（№６０）

農業名人

梅づくり名人　木下（きのした）　宏志（ひろし）

昭和２０年生まれ　中川村

日当たりの良い枝づくりと肥沃な土づくり

会社勤務の傍ら、竜峡小梅35ａ、南高、大栗小梅を含め約40ａの梅園を経営、親の手伝いで始めた梅の栽培は既に47年を経過しようとしている。

独自の栽培手法としては、土づくりに重点を置き、きのこ残渣に稲わら、モミガラを混ぜ２年程熟成した自前の堆肥を毎年多量に施肥している。

ほ場の水はけを良くするため、定植を高植えにして、暗きょ排水を行っている。

枝の剪定は元から行い、日当たりを良くして防除薬剤のかかりを良くするとともに、枝も一本一本ていねいに下方向に向けて誘引して収穫作業等の管理をし易くしている。一番古い木は既に60年を超えている。

病害虫の防除は、地域の防除歴に沿った適正な防除が基本で、かいよう病とコスカシバの防除に重点を置いている。

かいよう病については、落花期の特別防除と展葉後２回のていねいな防除。

コスカシバについては、９月下旬～落葉後の２回の防除で散布前に被害部分をきれいにしてから、主幹を中心によく洗うように散布している。

出荷は価格の安定している生果中心で今年は約４ｔ、多い年で約６ｔ出荷しており、村の出荷量の８％を担っている。

生果による出荷ということで、午前中の収穫、午後の選果、夜の箱詰めと徹夜にもなることもある。

「付いた傷がわかるのは次の朝」ということもあり、２度の選果を行い、より良質な生果を出荷し、個別選果であることからＪＡを通じて名前入りでの販売をしている。

また、優れた技術と人望により、ＪＡ梅部会の役員を10期20年、内伊南部会長を３期目５年歴任され、地域の農業振興にも尽力、現在、JA上伊那果樹部会の部会長を務める。